

旭川工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	企業実習
科目基礎情報						
科目番号	0076		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	物質化学工学科		対象学年	4		
開設期	集中		週時間数			
教科書/教材	なし（各受入先での資料等を補助教材とする）					
担当教員	杉本 敬祐					
到達目標						
1. 企業等における技術者の実務・社会的責任を理解できる。 2. コミュニケーション能力等の「技術者が備えるべき能力」の必要性を理解できる。 3. 高専で学んでいる知識・教養が、企業等でどのように活用・応用されているかを理解できる。 4. 技術者として技術と自らの現状及び将来のあるべき姿を認識し、将来にわたって学習することの意義を理解し、自らのキャリアを計画し、それに向かって継続的な努力ができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 (B-2、D-1、E-3)	企業等における技術者の実務・社会的責任を正確に理解できる。		企業等における技術者の実務・社会的責任をほぼ正確に理解できる。		企業等における技術者の実務・社会的責任を理解できない。	
評価項目2 (B-2、D-1、E-3)	コミュニケーション能力等の「技術者が備えるべき能力」の必要性を正確に理解することができる。		コミュニケーション能力等の「技術者が備えるべき能力」の必要性をほぼ正確に理解することができる。		コミュニケーション能力等の「技術者が備えるべき能力」の必要性を理解することができない。	
評価項目3 (B-2、D-1、E-3)	高専で学んでいる知識・教養が、企業等でどのように活用・応用されているかを正確に理解できる。		高専で学んでいる知識・教養が、企業等でどのように活用・応用されているかをほぼ正確に理解できる。		高専で学んでいる知識・教養が、企業等でどのように活用・応用されているかを理解できない。	
評価項目4 (B-2、D-1、E-3)	技術者として技術と自らの現状及び将来のあるべき姿を認識し、将来にわたって学習することの意義を理解し、自らのキャリアを計画し、それに向かって継続的な努力ができる。		技術者として技術と自らの現状及び将来のあるべき姿を認識し、将来にわたって学習することの意義を理解し、自らのキャリアを計画し、それに向かって継続的な努力がほぼできる。		技術者として技術と自らの現状及び将来のあるべき姿を認識し、将来にわたって学習することの意義を理解し、自らのキャリアを計画し、それに向かって継続的な努力ができない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 物質化学工学科の教育目標 ② 学習・教育到達度目標 本科の教育目標 ② JABEE基準 (a) JABEE基準 (d) JABEE基準 (h)						
教育方法等						
概要	これまでに習得した知識や技術が企業等の現場でどのように活かされているか、将来職業人となるためにこれから身につけるべきことは何か、といった問題意識を持って実務訓練を行う。					
授業の進め方・方法	夏季休業期間中に実習企業等で5日間以上実施するが、それまでに実習先の決定、内容の決定を行う。実施後は実習報告書等を作成し、実習を振り返る。					
注意点	企業実習の趣旨・目的を十分に理解し、受入企業等の事業内容を事前に承知しておくこと。企業実習は受入企業等の多くの人たちの協力によって実現できることを肝に銘じ、実習生としての責任を十分自覚し、その言動に責任を持つとともに礼節を守ること。 教育フ°ロク°ラムの学習・教育到達目標の各項目は、B-2、D-1、E-3とする。 評価については、合計点数が°60点以上で、単位修得となる。その場合、各到達目標項目の到達レべ°ルが°標準以上で、あること、教育フ°ロク°ラムの学習・教育到達目標の各項目を満たしたことが°認められる。 評価項目と評価対象の詳細については、ガイダンスで周知する。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	実習企業等の決定		受入先一覧の中から候補を選び、担当教員による調整を通して、実習企業等を決定できる。	
		2週	実習テーマ・内容の決定		担当教員や受入先担当者による指導を通して、実習で取り組むテーマや内容を理解できる。	
		3週	企業実習期間中		就業規則等を順守し、受入先担当者の指示に従いながら、真摯に実習に取り組むことができる。	
		4週	実習報告書等の作成		実習終了後、受入先へ礼状を書き、担当教員へ実習報告書を提出することができる。	
		5週	(企業実習証明書の受理)		(受入先担当者から、当該学生の企業実習証明書を提出していただく。)	
		6週				
		7週				
		8週				
	2ndQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
後期	3rdQ	1週				
		2週				

		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	受入先評価	レポート	合計
総合評価割合	40	60	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	30	50	80
分野横断的能力	10	10	20